

金沢大学共通中国語補助教材に求められる補足内容 と二外教師が備えるべき文法知識

著者	西村 英希, 肖 海娜
著者別表示	NISHIMURA Hideki, XIAO Haina
雑誌名	外国語教育フォーラム : 金沢大学外国語教育論集
巻	16
ページ	81-87
発行年	2022-03
URL	http://doi.org/10.24517/00065790



金沢大学共通中国語補助教材に求められる補足内容と
二外教師が備えるべき文法知識
Supplemental Content for the Common Chinese Language Teaching
Materials at Kanazawa University and the Grammatical Knowledge CFL
Teachers Should Have

西村 英希*、肖 海娜†
Hideki NISHIMURA and Haina XIAO

概要

金沢大学における共通中国語 A (1 年次学生を主な対象とする) の授業は 2022 年現在、凡そ 200 人規模で推移している。これだけの数の学生が履修する「共通教育」という性質を鑑み、近年、中国語班では統一教科書である『アカンサス中国語』(附帯のドリルも含む、以下『アカンサス』)の作成及び利用が実現された。しかし言うまでもなく、統一教科書には中長期的な視点からの改訂作業が常に求められる。本稿では、中でも文法解説の部分について、新年度のより良い指導に繋げるために追加が必要と思われる内容及びその中で実際に使用されている例文などを挙げながら、問答形式で指導のポイントを記述していく。

1. はじめに

金沢大学における共通中国語 A¹ (1 年次学生を主な対象とする) の授業は 2022 年現在、凡そ 200 人規模 (30 人まで/クラス) で提供されている。これだけの学生が履修する「共通教育」という性質を鑑み、近年、中国語班では統一教科書である『アカンサス』の作成及び利用が実現された。しかし言うまでもなく、統一教科書には中長期的な視点からの改訂作業が常に求められる。教科書の内容を決める要素は、収録される語彙・文法項目、教授順序などに代表されるハードの部分と、それを実際に使用する際に教師側が持つべき知識といったソフトの面に分けられる。特に後者は、教科書を使用していく中で、教科書自身が改訂されるか否かに関わらず定期的な修正、見直し、教員間での知見の共有が求められる性質のものである。

この前提に立って上述の学生数規模の授業を想定した場合、当該教科書の内容に関する理解と知見を、理想的には全ての教員が共有しておく必要がある。2021 年度は、共通の補助パワーポイント資料²が全ての担当教員に配布された初年度でもあった。以下では、中でも日本人教員の文法解説に関わる部分について、新年度のより良い指導に繋げるために追

* 金沢大学国際基幹教育院外国語教育系

† 立命館大学言語教育センター

¹ 週あたり、日本人教員の授業 1.5h、ネイティブ教員の授業 1.5h。

² 日本人教員用は国際学類の上田望教授と人文学類の加納希美講師、ネイティブ教員用は国際基幹教育院の趙菁准教授によって作成された。

加が必要と思われる項目及び実際に使用されている例文及び作例を挙げながら、文法のポイントを記述していく。

なお、本稿の内容は第一著者が学期期間中に第二著者と中国語（教育）文法について議論し、適宜授業に反映させていった内容を基にしている。

2. 授業において補足が可能と考えられる内容

以下では、教員からの補足が必要、あるいは補足することによって学生の興味を喚起できるとと思われる内容を問答形式で、教科書で取り上げられる順に記述していく。

2-1. 人称代名詞 ta (『ウォーミングアップ』)

質問：人称代名詞を“ta”としている文章をネットで見ましたが、これはどういう意味でしょうか。

解答：近年の文章では、実はこの ta という漢字を伴わずにローマ字だけを表記するものを多く確認することができます。漢字に置き換えると1年生の皆さんもご存知の“他/她/它”になりますね。では、漢字を使わずにローマ字のみで ta と表記する意図はどこにあるのでしょうか。具体的には、特に性別観の変化などに敏感な文章でよく見受けられます。男性か女性か明示しにくい場合に活躍する表記法、という訳です。

2-2. “咱们”と“我们”(同上)

質問：台湾の友人は“咱们”を使わないと言っていましたが、やはり学ぶ必要はありますか。

解答：確かに、台湾(福建省から移住した人が多い)など南に行けば行くほど“咱们”を使う人は少なくなります。また北京や天津といった地域では教科書通りに使われますが、逆に、さらに北のいわゆる東北三省(黒龍江、遼寧、吉林)まで行くと、遼寧省では二者を分けないのに、吉林省では分ける、また特定の地域では二者を分ける基準が異なる、など非母語話者にとっては混迷を極めていきます。

このように実際の使用においてはなかなか複雑な事情が関わっているのですが、中国語検定やHSKなどの資格試験が対象とする「普通話」は、基本的に北方方言を基礎語彙として設定した標準語であるため、なかなか気軽に避けていく³ものとなっています。アドバイスとしては、“咱们”と“我们”を使い分ける人も少なくないので、まずは教科書で習う違いを理解しておき、あとは自分の周りにいる人に合わせて主体的に使うかどうかを判断してもらうのが良いでしょう。

2-3. “现在”と「いま」(『第3課』3、例文①)

質問：“现在”の訳が「これから」となっていますが、「から」は何に対応しているのですか。

解答：字面から判断すると、二者をイコールで結びつけてしまいそうですね。中国語と日本語は漢字を共有していても、この例のように必ずしも一対一対応になっていないものが多くあります。これがよく「厳密な意味での100%の翻訳はできない」と言われる所以です。ことばというのは、同じ場所にルーツを持つものであっても、発展を遂げた場所が違えば(例えば中国と日本のように)、環境的な文脈が付加されて異なる意味を持つようになりま

³ 目白大学の氷野善寛先生とお話する中でアドバイスの着地点を得た。

す。

- 1) 我现在去打工。私はこれからバイトに行きます。(例文①)
- 2) 我现在在家。(筆者作例) 私はいま家にいます。

二つの異なる言語ですから違いは色々あるのですが、この例で見ると中国語の“現在”が包含する範囲は日本語の「いま」よりも広いようです。似たような例では、中国語の“最近”は日本語の「最近」と違い、未然の事態にも使えるため、間違いが起きやすいので注意が必要です。

「外国語を学ぶことは文化を学ぶことだ」とは言ったものですが、「異なる切り方で世界を捉える視点を育む」とも言えるでしょう。解決できない「矛盾」ではなく、互いに異なる言語(文化)間の「違い」として捉えることで、視野を広げていきましょう。

2 - 4. 程度副詞が必要でない場合(『第5課』1、例文③④)

質問: 例文と同じような文脈で、答えとして程度副詞を伴っていない場合を目にしました。これは間違いではないのですか。

解答: 形容詞述語文の説明では、述語になる形容詞は、何かと比較する時以外は“很热闹”のように程度副詞を入れること、と伝えました。実はこのルールが適用されない場合が他にもあります。それが、3)のような状況です。

- 3) 昨天的新年晚会热闹不热闹? 昨日の新年会は賑やかでしたか?
— 热闹。賑やかでした。(例文③)

3) は反復疑問文の形を取っていますが、他にも“吗”疑問文(“昨天的新年晚会热闹吗?”)で聞かれた時には、程度副詞をつけなくてもちゃんと成立するのです。二つの疑問文に共通するのは、どちらも疑問文自体に形容詞“热闹”が含まれている、という点です。日本語で「美味しい?」と聞かれて鸚鵡返しに「美味しい」と答える感覚に近いでしょうか。一方で疑問詞疑問文を使った4)では必ず程度副詞が必要になることを覚えておきましょう。

- 4) 那个青年怎么样? あの青年はどうですか?
— 挺优秀/*⁴优秀。なかなか優秀です。(例文④)

2 - 5. 連用修飾語マーカー“地”の省略可否(『第5課』4、例文①②③)

質問: 「“地”は省略されることが多い」と説明がありますが、つけなければいけない場合などはありますか。

解答: 教科書に載っている例文を比較するだけでも規則性が見えてくることがあるので、学習者の皆さんはまずは(理想的には)予習の際に例えば「省略規則を帰納的に導けないか」考えてみると良い頭の体操になるのでおすすめです。とは言え教科書の例文①②③(本稿の5)、6)、7))にも“地”は加えられるので、便宜的に8)、9)の作例にも“地”を加えた状

⁴ 「*」(アスタリスク)は非文(文法的に間違い)であることを表す。

態でそれぞれの構造を見ていきましょう。先に答えを言ってしまうと、6)以外の例では“地”を省略できません。

- 5) 学生们很愉快地交流。学生達は楽しそうに交流します。(例文①)
- 6) 你仔细(地)看看，他是谁？よく見てみて，彼は誰かな？(例文②)
- 7) 他吃惊地问：“这是你的作品吗？”
彼は驚いて訊ねた。「これは君の作品なのかい？」(例文③)
- 8) 他不高兴地走了。(作例) 彼は機嫌を悪くして行ってしまった。
- 9) 他生气地说了一句。(作例) 彼は怒って言った。

5)では連用修飾語“愉快”の前に程度副詞“很”が、8)には否定副詞“不”が使われています。実はこれが大事な条件の一つで、程度副詞や否定副詞“不”が使われると“地”を省略できなくなります。7)はどうでしょうか。勘の良い方は気づかれたかもしれませんね。“吃惊”はVO構造の「驚く」という意味の動詞です。この場合にも“地”の使用は必須となります。また 6)以外の全てについて言えることですが、5)愉快(楽しく)、7)吃惊(驚く)、8)高兴(喜ぶ)、9)生气(怒る)など、心情描写を表す心理動詞にも“地”は欠かせません。そして残った 6)ですが、連用修飾語が動作自体を修飾している(「よく見る」)場合には省略可能となります。暫定的にまとめると以下ようになります：

- ・程度副詞“很”などや否定副詞“不”がつくと“地”が必要 ← 5)、8)
- ・VO構造の動詞が連体修飾語になる時には“地”が必要 ← 7)
- ・心情描写には“地”が必要 ← 5)、7)、8)、9)
- ・動作描写はどちらでもOK ← 6)

ちょっと複雑になってしまいましたが、つまりは、上の3つの条件のいずれかに一つでも該当する場合、“地”は省略できない、と覚えておくと良いでしょう。

とは言え、外国語学習には「例外」がつきものです。もし判断が難しい例に出会っても思考停止せずに、まずは「どうしてだろう?」「どう解釈すれば規則内の現象だと言えるだろう?」「より良い規則があるのかも?」と考えてみるのもまた外国語/文化学習の面白いところですよ。

2 - 6. 形容詞の重ね型と文末の“的”の共起(『第12課』2)

質問：教科書⑤⑥の例文を見ると後者にだけ文末に“的”がついていますが、これは何でしょうか。また何かルールがあるのでしょうか。

解答：皆さんはこうした文末に出てくる“的”にどのくらい見覚えがあるのでしょうか。第5課で習った程度副詞“挺(“挺好的!”「いいね」)”や、第10課で習った可能性を表す助動詞“会(“他会来的!”「彼はきっと来るよ」)”のように“的”と共起して話者の主観を表す、というお話をしたことがありましたね。

形容詞の重ね型の主な作用も「程度をより強める」、「現象を vivid に表現する」点にあり、述語になる時には、文末の“的”と共起することがよくあります。

- 10)*他个子高高。(作例、単音節形容詞) 彼は背が高い。
- 11)他个子高高的。(同上)
- 12)他房间收拾得干干净净,东西摆得整整齐齐。(例文③)
彼は部屋をピッカピカに片付けていて、物もスッキリ整理整頓しています。
- 13)*教室里太冷了,两手冻得冰凉冰凉。(例文⑤)
教室の中は寒すぎて、両手が凍えてすっごく冷たい。
- 14)你看,那只小猫长得雪白雪白的。(例文⑥)
ほら、あの子猫真っ白だね。

まず 10)の単音節形容詞の重ね型は一般的に“的”なしでは述語になれないため 11)のようにします。続いて、二音節形容詞の重ね型ですが、12)のような AABB 型形容詞にはついてもつかなくても構いません。そして最も気をつけなければならないのが 13)、14)の ABAB 型形容詞で、比喩的な表現を作るこの形式には“的”が必ず必要になります。13)は教科書に掲載されている例文ですが、複数のネイティブ⁵に調査した結果、全員から文末に“的”がないと不自然だ、という回答を得ました。

色々な制約はありますが、まずは、「単音節形容詞と ABAB 型形容詞が述語になる時には文末に“的”をつける」と覚えておいてもらおうと思います。

2-7. “让我V”と“给我V”が表す意味の違い(『第20課』1・2)

質問:“让我V”と“给我V”はどちらも「私に～させて」という意味を表すように思いましたが、二者の違いはどこにあるのでしょうか。

解答:言われてみるとこの二つの表現はとても似ていますね。

- 15)菜做好了,给我尝尝。ちょっと味見させてみ。(例文⑥)
让我尝尝。(作例) 味見させて。

順番が前後しますが、“让我”を使った場合には語気の柔らかい「依頼」の意味になります。一方で、“给我”を同じ文脈使った場合には語気が少し硬くなり、「軽い指示」のような意味になります。「～させて」というよりも「～させてみ」というイメージでしょうか。“让”はその漢字からもわかるように、もともと「譲る」という控えめな意味の動詞ですし、“给”は単純に「わたす」という意味で、やはりそれぞれもとの動詞が持つ意味が派生的な用法にも影響していると思われます。

3. まとめと今後の課題

以上は、管見の限り、一般的な中国語文法書では扱われていない現象について、金沢大学における中国語教育文法のよりよい解釈の実現という観点から、便宜的に幾つか取り上げて初期的な考察を行ったものである。もちろん、個別の研究論文を一つ一つあたっていけば、関連する情報が見つかる可能性もあれば、またより微に入って細を穿つ記述ができる可能性は十分にある。ただ、本稿が特に指摘したいのは、中国語教育文法という分野における(特

⁵ 6名のネイティブスピーカーの生まれ育った地域はそれぞれ、吉林省、遼寧省、山東省、天津市、四川省、内モンゴル自治区。

に初～中級の)些末なように見えて、実は文法の大局においても極めて重要な意味を持つ内容について、学習者がアクセスしやすい状態になっていないのではないか、という点である。また、個別の教育機関の個別の教員が孤立した形でそれぞれの文法解説を整理していくよりも、機関、公立/民間、個人の垣根を超えて協同することで、より学習者に裨益できる教材を共有の知として蓄積できることは間違いないだろう。特に教育文法という分野においては、その傾向は顕著であるように感じられる。

どこの教育現場においても、授業の雰囲気を作るのが得意な教員、説明の得意な教員、授業資料作成に長けた教員、研究に長けた教員など、それぞれの教員には誰しも一長一短がある。今求められているのは、それぞれの機関、個人が「収蔵」している知見を存分に共有、活用し、これらを相互扶助的に作り上げていけるような仕組みではないだろうか。

それでも現実を見れば、目下のところ、教育文法教員養成に関わる特効薬的な解決方法は見当たらないと言わざるを得ない。末尾に 2021 年度の授業資料作成にあたって参考にした文献を載せているので適宜参考にして頂きたい。本稿が扱った問題よりも基本的な部分で、『アカンサス』で使われているような表現について学習者の質問に答えられない、という状況の多くは、これらの文献から適宜情報を得ることでその多くを解決することができるだろう。また『アカンサス』を使用した学生から届いた「これをしっかりやっておけば 11 月に中検 4 級は普通に受かると思います」といった声や、金沢大学の第二外国語履修者が 1 年の学習を終えた 3 月時点で複数の中検 3 級合格者を出していることも考えると、一般的な大学における 1 年次の中国語文法解説 (第二外国語) に必要とされる参考文献としても大方同じことが言えると推測する。

至らなかった点として、第 12 課の程度補語“极了”、“死了”の使い分けのように、筆者自身も授業で効果的な解答を示せなかった問題も少なからずあったことを記しておきたい。第 2 - 6 節の 13) では現行の教科書で使われている例文が非文 (文法的に間違い) であることを指摘したが、5) の例もまた単独では成立しない非文のように思われ、次回の改訂作業に向けて、内容の改訂、充実をはかっていきたい。

最後に、筆者の拙い授業に呆れることなく授業に取り組んでくれた学生たち、またドリルのコメント欄や授業後の質問で建設的に自らの考えを表明し続け、授業と本稿に貢献してくれた学生たちに心から感謝したい。

参考文献

- 相原茂 (2016) 『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書 (新訂版)』、同学社。
- 荒川清秀 (2013) 『基礎徹底マスター! 中国語練習ドリル』、NHK 出版。
- 遠藤光暁、董燕 (2004) 『話す中国語 セルフマスター 応用編』、朝日出版社。
- 遠藤光暁 (2006) 『中国語のエッセンス』、白帝社。
- 古川裕 (2001) 『チャイニーズプライマー』、東方書店。
- 古川裕 (2008) 『中国語の文法スーパーマニュアル—中国語の奥底を流れる超重要ルールがわかる』、株式会社アルク。
- 古川裕 (2009) 『新感覚! イメージでスッキリわかる中国語文法』、株式会社アルク。
- 丸尾誠 (2010) 『基礎から発展まで よくわかる中国語文法』、株式会社アスク出版。

三宅登之（2012）『中級中国語 読みとく文法』、白水社。

守屋宏則、李軼倫（2019）『やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版』、東方書店。